

第7回 櫃原市総合政策審議会

日時：令和2年12月3日（木）

午後1時30分～

場所：大和信用金庫八木支店3階 会議室1

出席委員：東委員、石川委員、大城委員、尾田委員、桐山委員、小西委員、佐伯委員、清水委員、土井委員、中澤委員、久委員、前川委員、牧野委員

○市：深田教育長、森嶋総務部長、福西企画部長

○事務局：小路企画部副部長、戸田企画政策課長、池田企画政策課長補佐、森島統括調整員、友井係長
杉本主査、中尾主査、大前主査、田尻主事

○傍聴人数：0人

1 開会

2 議事

○パブリックコメントによる市民からの意見への対応について

久会長 こんにちは。それでは次第にしたがいまして、議事の方を進めてまいりたいと思います。先ほど事務局からのご案内がございましたように、今回が、この審議会としては最終回となっておりますので、ご審議のほどよろしくお願ひします。
それでは1つ目の議題でございます。第4次総合計画・第2期総合戦略に係ります、パブリックコメントによる市民からの意見対応につきまして、ご説明いただければと思います。よろしくお願ひします。

事務局 （資料説明）

久会長 どうもありがとうございました。ただいま事務局からご説明がございましたように、さまざまなご意見を賜りましたけれども、もうすでに盛り込んでいるという内容もたくさんあるということで、事務局としてはこのコメント案に対して変更がないということでございます。いかがでございましょうか。何かご質問やご意見はございますか。

石川委員 14番の人口ビジョンに関する回答の最後に「人口ビジョンのあり方をあらためて考える必要があります」とあるんですが、これはどういう意味ですか。というのは、適正人口はこういう意味合いですよと5万数千人というかたちで、仮定として例を挙げられているのですが、これは見方によれば、想定している人口推計やビジョンについて、否定されているような印象を受けます。

事務局 石川委員のご質問に答えさせていただきます。人口ビジョンというのは、人口を増やすというのが最大の目的でつくっている計画であり、総合戦略を推進していく上で、人口を維持するという目的のものです。ただ、適正人口というのはそうではなくて、資料に書かせていただいているとおり、人の総数が人口の最大規模の維持と、全ての人々の最低の生活水準を両立化するという新たな考え方であり、実際の面積の基準で人口を割っているという算出方法です。いまの檜原市の人口は12万1000人程度なんですけれども、だいたい半分が檜原市の適正人口で、それが檜原市民にとって最適な生活水準になります。いままで、人口ビジョンというのは、先ほど申し上げたとおり、増加することで社会保障や税などの問題を解決するというような考え方で行われているので、こういう考え方もあるということを含ませて、書かせていただいている次第でございます。

石川委員 そうでしたら、例えば年齢の形態などについて人口の量よりも質を重視するということも考えられると思います。例えばいま、人口が半減したと仮定した場合に、われわれ市民が、現在享受しているサービスが受けられるのかどうかという点についてはどう思われますか。

事務局 続きまして、石川委員のご質問にお答えさせていただきます。こちらの「人口」というのは、人口ビジョンですと、いまおっしゃったように5歳階級別で、男女別の人口表があるというもとでつくらせていただいております。ただ、「適正人口」というのはそうではなくて、先ほど申したように、あくまでも面積で人口を割っており、細かな男女別や、5歳刻みの人口が出ているものではありません。ただ、人口が減るということは、それだけ税収が減り、社会保障等、サービスが受けにくくなるということが現実ではあります。そういう考えのもと、適正人口というのは、社会保障を活かしていくわけではなくて、あくまでもそういう要素を除外して、生活水準を高く両立するという人口という考え方になっておりますが、ただ、定義が定まっていない部分もありますので、今後、議論を深めていければと思っております。

石川委員 分かりました。以上です。

久会長 石川委員にご指摘いただいているように、適正人口の適正ってどうやって測るのかというあたりで言うと、人口の量だけではないですよというご指摘だと思います。人口バランスであったり、人口が減少することによって税収が減る一方、サービスの量というのは同じように減っていくので、その減り方がちょうどバランスが取れていけば、サービスの質というのは落ちていかないわけですよ。そうやって総合的に考えて、何がいかにか適正かというのを判断していかないといけないので、必ずしも量だけの問題ではないですよというご指摘です。従ってこの回答の書き方をもう少し丁寧に書いていただくと、先ほどのご指摘も踏まえて、分かりやすい回答になるのではないかと思います。そのあたり、最終的にお返しするときに、またご検討いただければと思います。他にいかがでしょうか。よろ

しいでしょうか。後ほどまた、全体のお話をいただこうと思っておりますので、パブコメに関する対応は以上にさせていただきます。

○榎原市第4次総合計画及び第2期榎原市まち・ひと・しごと創生総合戦略 答申（案）について

久会長 続きまして、「榎原市第4次総合計画及び第2期榎原市まち・ひと・しごと創生総合戦略 答申（案）」につきまして、まずはこれも事務局からご説明いただければと思います。よろしくをお願いします。

事務局 （資料説明）

久会長 ありがとうございます。先ほどご説明いただきましたように、ここで承認いただきましたら、後ほど私の方から亀田市長に答申をお渡しするというかたちにさせていただければと思います。今のところ、事務局としては、パブリックコメントの案から修正せずに、このまま鑑をつけて市長に答申をしたいということでございます。いかがでしょうか。また後ほど、それぞれの委員の方から、全体を通しての今後の運営も含めてのご意見等を賜る機会をつくりたいと思いますが、その前にまず、この答申案でよろしいかどうかというのをご承認いただきたいと思っておりますので、その内容につきまして、何かご質問、ご意見はございますか。よろしいでしょうか。それでは異議なしということで、ただいま事務局の提案がございましたとおり、資料の2の案をとりまして、市長の方に答申をさせていただきたいと思っております。どうもありがとうございます。それでは、先ほども触れましたけれども、これで審議会としては最終ということになりますので、今後の運営に関するご要望、あるいは留意事項等も含めて、各委員の皆さま方からお1人ずつ、ご感想、ご意見を賜ればと思っております。それでは東委員の方から順番によろしくお願いします。

東委員 ありがとうございます。大変まとめるのにもご苦労されて、立派なものが仕上がったと思います。今後についてですけれども、先ほど冒頭で触れていただいた、行政運営の方向性の政策の土台のところも、ちょうど今後、デジタル庁の設置も含めて、自治体DX計画を総務省の武田大臣が策定するという話が出てきましたので、タイミングがいいかと思えます。まさにいま、官邸の方でデータ戦略タスクフォースが立ち上がって、いろいろ検討が進んでいる段階ですので、随時そちらの様子を見ながら、この政策の土台をきちっと固めていって、政府が示すDX計画に沿ったかたちで運営されていくと、結果的に行政の職員の方々も中長期的に見たら楽になっていく方向になると思います。最初は大変ですけれども、ぜひ若手の方々を中心に、デジタルという話をキャッチアップしていただいて、土台を固めた上で、1から4をうまく回していただければと思います。以上です。

久会長 ありがとうございます。石川委員、よろしくお願いします。

石川委員 事務局の皆さま、ご苦労さまでございました。皆さんご存じかと思いますが、「入るを量りて出ずるを為す」という言葉があると思います。これはまず、歳入をちゃんと計算して、歳出を組み立てなさいよということかと思いますが、歳出の部分を、行財政改革などで切り詰めていったところで、過去何十年とやっておられると思います。それをさらに強力に進めていくというのも、1つの方法かもしれませんが、私はまず、「入るを量る」という部分を、全職員が英知を結集されて、財源を確保する。歳入を膨らませるという方向性をもってしないと、これだけのボリュームのあるものは、たぶん、5年、あるいは10年ではできないのではと思います。特にコロナ禍でございますので、限られた財源ということもあります。そこを、あらゆる英知を結集されて、とにかく収入、歳入をどれだけ増やせるのかというのを、いろいろと検討し、めりはりをつけて、十分に予算を配分するというようなやり方ができれば、計画内容は実現できるのではないかと思います。今のところ、コロナは最重要課題かとは思いますが、それ以外にもいろいろと日常のルーティンというのはあると思います。そのような事業をやっていかなければならないという中で、やはり歳入というのは一番大事であるのではないかと思います。さっきの議会でも質問がありましたけれども、ふるさと納税などについて、尋ねておられた議員さんもいらっしゃったとは思いますが、とにかくがむしゃらに取り組んでいただけたら、これは立派なものになるのではないかと思います。私からは以上です。

久会長 ありがとうございます。それでは大城委員、よろしくお願いします。

大城委員 いままで大変お世話になりました。ありがとうございます。私自身もこの委員会、この審議会に参加させていただいて、市の方から提示されるものであったり、委員の皆さんの意見をお伺いする中で、非常に学ぶことが多く、大変ありがたく思っております。今後の進め方等についての要望ですけれども、限られた資源をもとに、より質の高い住民サービスを提供するにはどうしたらいいのかというのは、どこの自治体でも課題かと思っております。その中で、住民の意見というのは、いろいろな自治体で非常に反映させようと、住民アンケートであったり、市民の方から話を聞く機会というのがだいぶ増えてきていると思いますが、実際にサービスを提供している側の人たちが、日ごろ、どういう課題を感じているのかとか、その人たちの意見からの吸い上げというのを、もっとやっていく必要があるのではないかなと考えております。例えば保育・幼児教育や、子育て、子育てのあたりでも、住民がどういうニーズを持っているのかを調査するのは、最近進んでおりますが、実際に幼稚園教諭や保育士が、現場で子どもを見ている中で、それから保護者と関わっている中で、どういう課題を感じているのかとか、子育て支援をしている中で、窓口の担当になっている人が、どういう問題を見いだしているのかという、専門職の観点から見た課題とか、そこから改善していくべき点というのを、もっと活かすことができると考えております。そういった声、意見も、今後の改善に生かしていただきたいというのが要望です。以上です。ありがとうございました。

久会長 ありがとうございます。尾田委員、よろしく申し上げます。

尾田委員 皆さん、ご苦労さまでした。今年は自治会からこの会に参加をさせていただきました。いま高齢化が進んでいく中で、自治会のいろいろなところからの要望書もあり、交通弱者がたくさんいるということで、買い物や医者への通いなど、いろいろな交通の場面があると思います。檀原市では、コミュニティバスは走っておりますが、われわれの昔からの旧村などの古いところでは道路が狭いということで、なかなかそういうバスが来られないという事情もあります。そこでいろいろ皆さんと検討し合いながら、自治会でもなんとかしてほしいという意見がたくさんあり、また、それを考えていこうということで、われわれとしては、いま、福祉施設の車を利用できないかということをご提案しており、福祉施設の方は、全面的に協力しましょうということで、檀原市の方と交渉をしております。できるだけそれも踏まえて、皆さんで検討していただければありがたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

久会長 ありがとうございます。では、桐山委員、よろしく申し上げます。

桐山委員 どうもありがとうございました。10年先の檀原市のあり方について私自身も関わらせていただけたこと、本当にうれしいな、ありがたいなという思いです。それぞれの分野のスペシャリストの方々のご意見を伺いながら、自分はなんと小さい見方をしていたかというのを、あらためて感じて、本当に恥ずかしかった思いですが、こんなに立派なものができる、本当にご苦労さまでした。それから加除式にするということも言われておりましたけれども、やっぱりこれからどんなことが起こるか分からない中で、起こったことに対して即適応、行政としてどうあるべきかというのを考えていただけるということで、大変心強く思いました。それからもう1つ、中学生用の冊子のつくるとおっしゃったのは何でしたか。

事務局 中学生版として、市内の中学生に配布させていただくことを考えております。

桐山委員 それは第4次総合計画ですか。

事務局 第4次総合計画と第2期総合戦略を対象としています。

桐山委員 どちらもですね。これからの世の中を背負ってくれる若い人たちに、そしてこの檀原市に住んでいる若い人たちに、そうやって伝えていただけるということは、本当に、すごく素晴らしいことだなと思いました。ただ、市としての考え方を若い方々にきちんと伝えていただくためには、指導していただく先生方の手引きみたいなものがあれば、若い人たちにもきちんと伝わるのかなと思いました。学校の授業の中で、どの時間帯に使われるのか。それはそれぞれの学校によって違うと思いますけれども、そういう、指導の手引きがあれ

ばいいなと思いました。本当にどうもありがとうございました。お疲れさまでした。

久会長 ありがとうございます。小西委員、よろしくお願いします。

小西委員 まずは事務局の方々、大変ご苦勞していただきまして、ありがとうございます。私も福祉関係をやっているために、ちょっと外れて最近の新聞等では、スポーツ関係なんかでも、31年、10年後ですね、国体が奈良県の方に、1年遅れて開催されるような話も聞いております。また、医科大学の教室が、10年後には必ずできているのではないかと考えております。現在、道の方もきれいに整備されつつありますので。そうすると橿原市のいろいろなことが変わってくる可能性があります。そして、本来の福祉の方なんですけど、私も先ほども言いましたように、先般も昨年度の児童虐待が19万人を超えているとお伝えしました。11月の5日の新聞を見ますと、奈良県が児童虐待に対して対応したのが五千十何件とありました。そうすると、橿原市の場合でも、相当数の児童虐待が進んでいるのではないかと考えておまして、年度末には、われわれも研修を、大和高田の児童相談所にも来ていただいて、勉強しようと思っております。地域福祉についても、私もその関係をしておまして、なかなか若い人の協力が得られないということで、学校関係にも声掛けはしております。そのことによってお年寄りに喜んでいただけるような、各地域でプログラムを組んでいただいて、取り組んでいる地域もたくさんあります。ただしこれは、絶やしてはいけませんので、行政の方からも、われわれと一緒に情報交換もしつつ、現在も取り組んでおります。長話もなので、この程度で終わらせていただきます。

久会長 どうもありがとうございます。佐伯委員、よろしくお願いします。

佐伯委員 奈良医大の佐伯です。素晴らしい目標といいますか、これからの政策の道筋が作成されたと思います。今後の課題としては、この内容を具体的にどう実現して、それを評価するかということになるかと思いますが、1つ、医学の分野では、もう20年ほどになりますが、ソーシャルキャピタルというものに着目した研究が多くありまして、ソーシャルキャピタルを「社会資産」と訳してしまったら、例えばそこに住んでいる人にお金持ちが多いかどうか、そこの健康と関係するかというだけかと思いがちですけれども、例えば自分が住んでいる地域の周りの人たちをどれくらい信用できるか。何か隙があつたらつけ込まれるような状況にあると感じている人が多い地域では、健康状態が悪かったり、周りの人は非常に自分に対して協力的だと認識している人の割合が高いと、死亡率が低かったりということが明らかになっているんですね。今回のこういった計画の評価に、市民アンケートを使って、今後、評価されていくというのは、こういうソーシャルキャピタルの考え方には非常に沿った考え方であって、自分たちがいい地域に住んでいると認識した場合は、いろんな結果がよくなる可能性があるんですね。じゃあ、そういう結果をよくするのに、どういう政策をしていったらいいのかという場合に、たくさんのお金を使って、いい施設をつくって、高いサービスを提供するというのは、1つの方法ですけれども、例えば地域のボ

ランティアといっても、その地域にどういう知識を持った人、どういう得意な分野を持った人、どういうふうに関心の高い人がいるかということやうまく引き出せるかどうかと、その地域の人が関わることで、こういうソーシャルキャピタルは高まるのではないかと考えています。例えば地区別に運動できるウォーキングコースを整備したいと思った場合、高いお金を使って道路を整備するのも1つですけども、もうすでに道で走っている人、若い人はたくさん走っていますよね。交通に注意しながら、音楽を聴きながら走っているわけです。高齢者の方は健康のためにたくさん歩いておられます。ああいう人たちはきっと、そういうことに興味がある人なので、ウォーキングコースの整備に協力してほしい、あるいはボランティアに手を貸してほしいということを行った場合は、ある程度の人には協力してくれると思うんですね。そういう地域の力をうまく行政の方が引き出していただくと、よりそのソーシャルキャピタルは高まるのではないかと。そこは実際、外から見ていると、どのくらいの潜在能力があるのかは分からないわけですけども、実際のまちに出て、どういう方法でそういう潜在的な力があるのかも見ながらやっていく必要があって、なかなか既存の方法では難しいかも知れませんが、そういったこともぜひご検討いただければと思います。以上です。

久会長 ありがとうございます。清水委員、よろしくお願いします。

清水委員 大変お疲れさまでした。この計画と戦略で、行政の方向性といいますか、心の持ち方を位置づけていただいたものだと思っております。今後は実施計画とか、実際の行政の場面でこの精神を取り込んで、進めていただければと思います。また、コロナ禍の不安定な時期でございますので、加除式とか、そういう機動的なやり方もご検討いただいたのが、大変いいことではないかと思えます。どうもありがとうございました。

久会長 ありがとうございます。土井委員、よろしくお願いします。

土井委員 皆さん、どうもご苦労さまでございました。パブリックコメントの中にもいくつかあったと思うんですけども、私もちょっと感じていて、ご意見を伺わせていただいたことがあるんですけども、どうしても前回の第3次に比べて抽象的な表現が多くて、具体的な表現が少なくなったように感じていました。市の方から回答がありましたように、新型コロナウイルスであったり、先ほど話があったデジタル庁の話であったり、非常に大きく変化している中で、やむを得ないことは思うのですけれども、今後、実施計画の中で、できるだけアンケートをされた成果指標は、結果として成果が上がるように、具体的に何をすればよいかというところをしっかりと検討していただいて、成果が上がるような戦略を立てていただいたらありがたいのかなと思います。よろしくお願いします。ありがとうございました。

久会長 ありがとうございます。中澤委員、よろしくお願いします。

中澤委員 榎原商工会議所の中澤でございます。榎原商工会議所は、県内、他の商工会議所と比べても一番だと思っております。榎原市さんとかなり連携を本当に強く持ちながら、経済の振興策に取り組んでいるところです。今後もこの計画に書いてあった、ここで決まったことに基づきまして、引き続いて連携を強化して、取り組んでいきたいなと思っています。それと、これはできなくてもいいです。コロナウイルスの関係です。パブリックコメントを見ても、お1人少しそれに触れておられる方があったかなというぐらいで、あまり意見もなかったもので、一般の方はあまり気にしないのかなと思っていますのですが、私の方から、市内の事業者さんなんかを見ていると、いま榎原市の営業所にとっては、危機管理とかリスクをどう考えるかというところを見ると、自然災害よりも、どうしてもコロナウイルスのことで頭がいっぱいということなんですよ。よくここで具体的に書けないというのは分かります。それは十分理解しているんですけども、暫定版という意見も出ていましたが、コロナウイルスへの対策がいまは先が見えなくて、なかなか書けないことを十分認識した上でやっていくよというところを、これは総合計画を発表されるときに、少し追加で何か補足していただくと、別に口頭でも文書でも構わないんですが、市民の方にも伝わるのかなと思っているのが1つ。それからこれはもっと難しいかも分からないんですけども、14番の方のご意見なんですけど、今回つくられているのが総合計画なので、全ての分野について漏らさずに、市の考え方、計画を挙げていくという、これは当然のことだと思うんですが、力の入れ具合というところが、実は市民の方が知りたいところなのかなというのは、実は思っていて、いろんな分野の、幅広い市の行政、全て取り組んでいくんですけども、いまの榎原市は特にこの分野に力を入れて、進めていきたいと考えているというのを、どこかで何か、市民の方に伝えることができたらいいなと思っています。なかなか難しい面もあろうかと思いますが、また何かの機会にご検討いただけたらと思います。ありがとうございます。

久会長 ありがとうございます。前川委員もよろしくお願いします。

前川委員 失礼します。NPO法人榎原健康スポーツクラブというところから来ております、前川と申します。いろいろな立場で、こういったところに参加させていただくことができまして、本当にありがたく感じております。それぞれの、異分野のスペシャリストの中で、いろいろと学ぶことの方が多くて、私自身はどんなことができたのかというのを振り返ると、本当に十分なことはできていなかったと思うんですけども、NPO法人という立場と、健康づくり、スポーツ、運動というところあたりで、何かできることがあればという思いで、参加させていただいておりました。現在、自分のやっていることというのは、ウィズコロナということで、何が自分にできるのかということを日々問いかけながら活動しているような人たちです。人を集めて何かをしていくという立場でいままでやってきておりましたので、その人を集めるというところに、非常にハードルが高くなっていて、それで何をしていくかというときに、やっぱり強い思いがないと、なかなか踏み切れないところがあり

ます。危険も伴っているし、リスクもあるので、その思いをどういうふうに表示していくかというところで、いろいろと、いつも悩んでやっているとこなんですけども、このコロナの時代に学んだことというのは、そういうことなのかなと思います。思いを実現するのに、どうやっていく方法があるのか、その方法を常に検討していくという勉強をさせていただいているのかなというふうに感じております。大変ありがとうございました。

久会長 ありがとうございます。牧野委員、よろしく申し上げます。

牧野委員 観光協会から来ております、牧野でございます。事務局の方、大変ご苦勞だったと思うんです。昨年の6月から始まって、途中の、ちょうど折り返しのあたりでコロナが出て、かなり振り回されたのではないかと考えていて、内容とかそういうのも、まとめるのが大変だったろうなと事情をお察しします。その中で、私のいまやっている観光という立場からなんですけども、われわれの観光の仕事って、どちらかというと市民向けというよりも、外からお客さまを呼んでくる、要はインナー向けではなくて、アウトターの人をどうやるかという仕事になるんですけども、その中で一番最近重要なのは、「住んでよし、訪れてよし」ということをよく言うんですね。住んでいる人たちが、やっぱりここはいいところなんですよ、楽しいところなんですよということを言わない限りは、人は来てくれませんよっていうことを、かなりいろいろなところで話が出るようになっていきます。ですから、榎原については、いろんな楽しいところ、面白いところ、日本でも人が住んでいた一番古い地域などというのが、われわれ観光にとっては十分な売りになるんですけども、それをなかなか、東京だとかの、建物があるよ、何があるよというのが少ないもんですから、藤原京跡のところに行っても柱が立っているだけなので、説明しづらいので、その説明商品である観光の資源というのがいっぱいあるところなのに、そういうことが説明できる市民の人たちが、この土地はいいところなんですよ、私たち、だから住んでいるんですよ、住んでみたいなって思わせるような施策だとか、そういうものをつくっていただければなと思います。今回の総合計画、それから総合戦略については、この時期により具体的なものをつくれというのは、かなり難しいかなと思います。ですから、これをどう次に続けるかは、やっぱり実行計画、アクションプランというのが一番重要になると思います。そのアクションプランをどのくらい実行性を持たせて、きちんと実行していくかということがキーになるのかなというふうに思いますので、次、3年、5年と中間が出てくると思うんですけども、そのバックアップというのをきちんとしながら、実行計画をきちんと進めていただければいいのではないかと思います。この期間、久しぶりにこういうものに出させていただいて、私自身も勉強させていただきました。皆さんどうもありがとうございました。

久会長 どうもありがとうございました。それでは私の方からも、皆さんのご意見も踏まえながら、4点ほどお願いをしたいなと思っています。1点目は、先ほど中澤委員から、めりはりをどうつけていくかというお話がございましたけれども、この全ての分野にわたって、満遍

なく、真面目にやっついていかないといけないのは当然なんです、やはりこの中で、ここ10年で、橿原市の売りにできるものがいくつ出てくるのかということが、私は重要なことと思っています。いろいろな売りがあっても、やっぱり時代を引っ張っていくような、最先端の政策がいくつ動き始めるかというのが、とても私は重要なことと思っています。手前みそになりますけれども、近畿大学はそのあたりは、この十数年、頑張ってきました、いろいろと世間を動かすようなことをやっています。つい最近の話題で言うと、いま、インターネットのスピードが4Gから5Gになりますよね。早速NTTと協定を結んで、近畿大学が5Gを使ってどういう社会が構築できるかという、いろいろな実験をしましょうというのを、もう始めます。一番有名なのはマグロです。いま、マグロは、白浜とか大島とか、その辺りでやっていますけれども、それを東大阪のキャンパスから、ちゃんといろいろな測定ができる、観察ができるようなリアルタイムなこともやりましょう。それから、佐伯委員も医療分野ですけれども、うちも医学部を持っているので、遠隔医療に5Gを使いながら実験的に始めてみようとか、かなり最先端のことに取り組みようとしています。そういう意味では、橿原市も全国初の、こう何かユニークな取り組みを積極的に、1つでも2つでもやっていただくと、それが非常に売りになります。実は私がお付き合いしている奈良県内のところですが、この辺りは生駒が最近非常に頑張ってくれていて、メディアに取り上げられることも多いんですけれども、そうすると、人材も非常に優秀な人材が集まり始めているんですね。身近なところで、うちの研究室の学生が今年、生駒市役所を受けたんですけれども、残念ながら不合格になりました。その学生は、最終的にはどこに決まったかということ、大阪市役所に決まっています。つまり生駒市役所に落ちて、大阪市役所に通るということになっているわけです。ぜひとも全国から優秀な人材が、橿原市役所を受けたいというような、そういうことになっていけばいくほど、優秀な人材も集まってくるし、それがまた市役所の力になっていくという好循環が起こってくると思います。そういうようなシナリオなんかも描いてほしいというのが1点。2点目は、石川委員から、お金がなかったらなかなかしんどいよねという話がございましたけれども、お金がなくなって、お金の頼らずにやろうとすると、やはりいわゆる協働ですよ、さまざまな主体の方のお力を借りないといけないと思います。それは先ほど佐伯委員がおっしゃったような、ソーシャルキャピタルとも実は表裏一体になっていることで、ソーシャルキャピタルももっと違う言い方をしたら、たぶん「地域力」だと思うんですね。地域の方々の力をいかに借り入れるか。そのことが、先ほどご指摘があったように、健康にもつながる、そういうことになってくるので、その協働の仕組みというのをいかに充実させるかというのも、この10年間では1つの大きな柱かなと思っています。ちょっと具体的な話を1つお示しすれば、これは十数年前、もっと前かもしれませんが、静岡の大井川町の協働の取り組みのお話を聞かせてもらいました。大井川町は名前のとおり、まちの真ん中に大井川が流れているんですが、その大井川の河川沿いに遊歩道を整備したいという話になって、各地域に均等の地域予算を配分させてもらったんですね。数年後、どれだけの遊歩道が整備されているかということが面白いなと思ったんですけれども、ある地域は、そのお金を全て業者さんにお渡しして、いわゆる業者さんに遊歩道整備をしてもらったんで

すね。別の地域は自分たちの力で遊歩道整備をした。材料費しか、お金としては使っていないんですね。そうすると、もうお分かりだと思いますけれども、自分たちの力が加わった地域は、業者さんに頼んだよりも数倍の長さの遊歩道整備ができているんですね。それがまさしく、お金だけでやりとりしようとするのか、お金と自分たちの知恵、あるいは力を加えていくことによって、かなり整備の状況が変わってくる。ここをぜひとも榿原市も参考にさせていただいて、お金プラス地域のお力も借りながら、あるいは企業のお力も借りながら、いかに効果的、効率的に進めていくかというのも考えていただきたいなと思います。3点目、その延長上なんですけど、これは大城委員から、現場の方々の声というのをうまく拾ってくださいねというご指摘があったと思います。行政が市民に向かっていろいろご意見を募集するというのを、いままでやってきましたが、実はその間に、現場の方々っていうのが、もうすでに地域のお声というのを拾っているじゃないかということなんです。その方々のお声を吸い上げて、また政策なんかで活かしていただいたり、あるいは政策を現場の方々にうまく実行していただくことによって、より効果的、効率的に事が進んでいくと思うんですね。そのためにはやはり、現場の方々も含めた、市役所内の協働というのがとても重要になってくるのかなと思います。どうしても協働というと、市役所とその外側の方々との協働をイメージするんですけども、実はその組織内の協働ですね、風通しのよさというのもとても重要なことを、あらためて思いました。4点目、最後ですけども、コロナの話が出ましたけれど、そのコロナというよりも、不測の事態が起こったときにどう対応するかということと言うと、もう少し一般化できるのではないかなと思うんですね。今回コロナの対応をしてきました。私は25年前に阪神・淡路大震災が起こったときに、お手伝いのために約2週間、べったりと豊中市役所に入らせていただいて、市役所の方と一緒に仕事をした経験がございます。そのときに何が分かったか。今回のコロナも同じだなと思ったのが、この不測の事態にすぐに動ける職員と、そうでない職員がいるんですね。すぐに動ける職員というのは、指示を待たなくても、自分の頭で判断して、すぐに行動に移せる人で、迅速に対応できます。ところがいままでの仕事で、指示を待って仕事をした方というのは、こういう不測の事態のときには指示が出ませんし、なかなか動けなくなってしまうんですね。そういう意味で、これからはたぶん、不測の事態というのは頻繁に起こってくるだろうと思います。だからコロナだけではなくて、こういういろいろな想定外のこと、不測のことが起こっても、すぐに動けるような職員さんを増やしていただきたいし、さらにはそのための人材育成の仕組みというの、しっかりとつくっていただきたいなというように思っております。これがうまくいけば、たぶんどんなことが起こったとしても、いろいろなアイデアが出てきて、迅速に対応できていくのではないかなと思いますので、そこを最後をお願いしておきたいと思います。私からのお願いを終了させていただきまして、いかがでしょう、特に最初の方にお話しいただいた方、後の方のお話を聞いていただいて、こういう部分もあるんじゃないかという補足でも結構ですし、全体を通してのご意見、ご要望等でも結構です、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それではこれで最終の審議会を終了させていただきたいと思います。何度も申し上げますように、この後、亀田市長の方に、私の方で代表して答申をお渡ししたいと

思っております。本当に長期間、さまざまなご意見を賜りまして、審議会の運営にもご協力いただきまして、ここまで来られたことを、最後に皆さま方に感謝を申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。それでは事務局の方にお返しします。よろしくお願ひします。

3 閉会

司会

久会長、ありがとうございました。このところ、マイクの音声の方、不具合がありまして、大変失礼いたしました。おわび申し上げます。皆さま、本当に慎重なご審議、そして私たち、身の引き締まるご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございます。今度の行政の方にいただいたご意見を生かしていきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひします。以上、本日の審議会で予定しておりました案件は、全て終了いたしました。久会長からもいまありましたように、本日ご議論いただいた答申については、この後、久会長から亀田市長へお渡しいただく予定になっております。櫃原市第4次総合計画及び第2期櫃原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に關しましての審議会は、今回は最終回となります。昨年の6月の第1回目から、本日の第7回目まで、1年半に及ぶ総合政策審議会のご審議にご協力を賜り、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。委員の皆さまの任期につきましても、来年、令和3年3月31日をもって満了となります。今後、第4次総合計画の進行管理、また、第2期総合戦略の効果検証等のため、総合政策審議会は、来年度以降も引き続き開催する予定となっております。委員については、事務局の方で今後、検討していく予定です。今後とも引き続き、櫃原市の行政運営にご協力を賜りますよう、お願ひ申し上げます。これで本日の審議会を閉会させていただきます。皆さん、長期間、大変ありがとうございました。